

国語科

公開授業①

-Challenge to Creative Lessons-

CCL

言葉の世界をひらく国語科の授業づくり

—創造的な表現活動における試み—

第4学年 杉川千草

○言葉の世界をひらく国語科の授業

日々の国語科の授業において、子どもたちは、他の学習者や教師などのほか、テキストの筆者や登場人物、過去の自分など、さまざまな他者と出会っています。

子どもたちは、さまざまな他者の言葉とのかかわり合いをとおして、自分の言葉を見つめ直し、新たな言葉を獲得していきます。また、学習の深まりを確かめたり、他者とともに学習することのよさを実感したりします。そして、このような過程を繰り返し積み重ねていくことによって、語彙を増やし自分の思いを深め表現力を豊かにするとともに、新たな認識を広げ「言葉の世界をひらく」ことができると考えています。

○創造的な表現活動

学習指導要領解説第3学年及び第4学年には、「話すこと・聞くこと」の指導事項として「相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。」「相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。」、言語活動例として「図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。」が明記されています。また「書くこと」の指導事項として「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。」、言語活動例として「収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。」が挙げられています。これらに基づいて、本単元を構想しました。

○単元「絵から読み取ったことを伝えよう」

絵を見て、感じたり想像したりしたことを伝え合う学習です。ミニギャラリーの解説委員として、読み手を引き付ける表現を工夫しながら、絵の良さを説明する文をつくっていきます。

本単元は、一枚の絵を見て感じたり想像したりしたことをもとに解説文を書き、ミニギャラリーの解説委員として、絵から読み取ったことを伝え合う学習です。

子どもたちはこれまでにいろいろな書く活動を経験していますが、自分の思いを自由にのびのびと表現できる子どもがいる一方で、書きたいことが見つけられなくてなかなか筆が進まないという実態も見られます。そこで、子どもたち一人ひとりの思いを大切にしながら、どの子どもにも創造的な表現活動の楽しさを味わわせたいと考えています。

本時は、絵から感じたり想像したりしたことを書きとめたものを交流することによって、いろいろな感じ方や考え方があることに気づかせます。その中から必要な事柄を整理し、読み手を引き付ける表現を工夫しながら、絵の良さを説明する解説文にまとめることによって、表現活動に自信をもって取り組むことができるようにしていきます。